

Goodbye. Perio Project



歯周病のない未来のために

フロスがあたり前の世の中を!

私たちは小さい頃、親やまわりの人たちからさまざまなことを教わってきました。

ご飯の前に手を洗う。外から帰ってきたらうがいをする。

そのおかげで、病気や風邪を予防できている人はたくさんいます。

アメリカではフロスの習慣もそのひとつ。

「幼いときに教わったから」とあたり前のように毎日続けているからこそ、

歯周病の方は少ないのです。

日本でも、意識せずフロスをする文化が根付いてほしい。

それがGoodbye Perio Projectの目指している未来です。

今回登場する渡邊陽子さんはそんな思いを持つグッペリメンバーの一人。

妊婦さんに早いうちから歯周病の知識を持ってもらうため、助産院で活動を行ないました。

助産院で活動することになつたきっかけ

渡邊 陽子さん
助産院での活動



自分が妊娠をして、改めて妊婦さんが歯の大切さを知る場がないことを実感しました。役所の方にサラッと「歯科検診行ったほうがいいですよ」と言われるくらいなんですよね。助産院では特にそういう話はされなくて。助産師さんにフロスの話をしたら、「知ってる。糸ようじみたいなやつだよね?」と言われたこともあります。正しい知識と使い方を知つていただきたくて、後日フロアフロスのサンプルを持って行って説明しました。妊婦さんこそお口に興味を持つて行って説明しました。妊婦さんこそお口に興味がある人が全然いない。だから、私がお伝えしたいなっていう気持ちが湧いてきたんです。

検査をしてもらっている最中でも、助産師さんに「フロスっていうのはね」とつっちゃう話してたら、出産後の母乳外来で「もっとたくさんの人にお話ししない?」って誘つていただけて。スタッフのみなさんにお話しすることになりました。

反応

何故フロスが必要なのか気づいてもらえるように話しました。

歯ブラシでは落としきれない汚れがあること、その汚れが歯周病の原因になり低体重児や早産につながる可能性があること。助産師さんから妊婦さんに伝わったとき、「えっ!」と興味をひかれそうなことに重点を置いたんです。

「子どもにもフロスをしたほうがいいんですか?」という質問がありました。講義の内容にはあまり盛り込んでいなかつた「子どもへの仕上げフロス」についてだったので、「フロスはお母さんが子どものためにすべきことだと、くみ取つていただけたのだから」とうれしくなりましたね。当日来られなかつた助産師さんにも「すごくよかったです!」って言ってもらえて。本当にやつてよかったです。

準備したもの

・スライド

(内容)

歯周病菌と低体重児・早産の関係

子どもの歯周病罹患率など

・提案用フロアフロス

・鏡



これから

出産準備クラスなどで、妊婦さんに直接お話を出来たらいいですね。妊娠中って知らず知らずのうちにリスクを背負ってしまうことがありますから。子どもが産まれると、ママ友だったり地域の交流会だったり新しいコミュニティに参加することができるので、そういう場でもお話していきたいです。

Goodbye Perio
プロジェクト参加は
こちらから!

Goodbye.
Perio Project

メンバー登録は <http://perio.tuftclub.jp>
でも受け付けています♪